

# 薬剤師の介入が抗 MRSA 薬の血中濃度に及ぼす影響

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年11月4日～2027年3月31日

## 〔研究課題〕

薬剤師の介入が抗 MRSA 薬の血中濃度に及ぼす影響

## 〔研究目的〕

薬剤師が抗 MRSA 薬の投与設計をすることで有効血中濃度に到達している割合について明らかにすることです。

## 〔研究意義〕

近年、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: MRSA) や緑膿菌を代表とする多剤耐性菌による院内感染が、社会問題となっております。その中でも MRSA 感染症は易感染者に発症しやすく、重症化しやすい院内感染症の1つです。抗 MRSA 薬は、有効濃度域が狭いため、採血を行い、薬物の血中濃度を逐一確認する必要があります。当院では、抗 MRSA 薬を投与された患者ほぼ全員に薬剤師が介入して、血中濃度が有効域内を推移するように、投与量を主治医に提案しています。

本研究では、抗 MRSA 薬を投与された症例を対象に薬剤師の介入の有無が血中濃度に及ぼす影響について診療録を用いて調査することで、その影響を明らかにするという研究意義があります。

## 〔対象・研究方法〕

対象患者：2015年1月1日～2020年9月30日の期間に帝京大学医学部附属病院で抗 MRSA 薬を投与された患者

研究方法：診療録を用いて、既往歴、入院時の臨床検査値、服用薬剤の種類及び薬剤名等調査を行います。抗 MRSA 薬投与後の初回血中濃度をアウトカムとして薬剤師介入群および非介入群の両群間をハイケア病棟あるいは一般病棟毎に比較します。

## 〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院薬剤部

## 〔個人情報の取り扱い〕

情報は匿名化します。

研究実施中の保管：調査したデータは薬剤部内の所定のパソコン内に保存します。

研究終了後の保管：倫理委員会事務局にデータセット等を提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後、廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部附属病院 薬剤部 係長 小瀬 英司

情報管理責任者: 帝京大学医学部附属病院 薬剤部 部長 安野 伸浩

住所: 173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 32001、7896 ]